

令和元年 7 月 1 8 日

京都市教育長 在田正秀 様

京都市地区小学校教科書選定委員会

委員長 瀬川 葉子

令和 2 年度から令和 5 年度まで京都市立小学校及び義務教育学校（前期課程）に
おいて使用する各教科使用教科書の選定について（答申）

別紙のとおり答申いたします。

京都市地区小学校教科書選定委員会 答申

「国語科」について、以下の観点に基づき、発行社ごとに教科書を調査・研究した。

選定の観点

- 1 基礎的・基本的な知識・技能の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。
- 2 習得した知識・技能を活用した問題発見・解決的な学習や豊かな言語活動が展開しやすいなど、思考力・判断力・表現力等の育成につながるよう工夫・配慮されていること。
- 3 児童が主体的・対話的に学ぶことができるよう、探究意欲を高める工夫・配慮がなされ、さらに、学んだことを活用した発展的な学習が展開しやすいこと。
- 4 国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力の育成に向け、伝え合う力、思考力や想像力及び言語感覚を養う教材が適切に配列されるとともに、実生活との関連を重視した言葉による見方・考え方を働かせた活動が展開しやすいこと。
- 5 我が国の言語文化、言葉の特徴や使い方、情報の扱い方に関する事項について、教材や活動が適切に取り上げられていること。
- 6 単元構成の系統性・発展性に加え、カリキュラム・マネジメントの視点から他教科等や現代的な教育諸課題との関連、また他校種との接続や家庭・地域との連携について工夫・配慮されていること。
- 7 基本的人権の尊重及び道徳性の育成の視点に立った内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。
- 8 表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成等について配慮がなされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

調査研究の結果の概要

■東京書籍「新しい国語」

巻頭で「つかむ、取り組む、振り返る」という各単元での学習過程を示すとともに、単元の手引きの冒頭では、学習で重視する視点が「問い」の形で提示され、言語活動を通して問いを解決していくという学習形態を意識できるよう工夫されている。

学年巻頭では、友達と質問し合ったり、話し合ったりする単元が設定されるとともに、各単元末では、吹き出しで児童の発言例を示すことで、対話的な活動を促している。また、「読むこと」の単元の中に、「書くこと」の活動を位置付けたり、「読むこと」と「書くこと」の単元を関連させて複合的に指導できる教材を配列したりするなど、習得した知識・技能を活用した言語活動が展開しやすいよう工夫されている。

単元冒頭では、学習内容に関連する既習の「言葉の力」が示され、身に付けた資質・能力を意識した学習活動が展開しやすい。また、単元末では、自らの学びを見つめ直したり、今後の学習に生かしたりするための振り返りと、その後には付けたい力を示す「言葉の力」が配置されており、何ができるようになったかを意識しやすい。さらに、学習したことを生かした学校生活や日常生活の場面を投げかけたり、上巻末には前学年、下巻末には上巻で学んだ「言葉の力」がまとめて掲載されたりするなど、身に付けた言葉の力を単元内や発展的な学習において活用できるよう工夫されている。

2年以上の各学年にある「きせつの足音」では、四季それぞれに合った言葉や詩が掲載され、季節の変化とそれを表す言葉のもつ豊かさを意識できるよう工夫されている。また、伝統的な言語文化については、昔話、俳句、百人一首、古文、漢文等が取り上げられ、音読等を通して気付いたことや感じたことを書いたり話し合ったりする活動が設定されるなど、古典や伝統芸能等に親しんだり、そのよさを感じたりすることができるよう工夫されている。

読書については、読書に親しみ、学習に生かすよう、各学年には、「〇年生の本だな」のページが設けられ、学年ごとに推奨する本が紹介されるとともに、2年以上では「図書館へ行こう」の単元で、学校図書館の使い方を学ぶなどの学習を通して、読書生活に目を向けられるよう工夫されている。また、「読む」領域の単元末では「こんな本もいっしょに」で関連図書が紹介され、学習と読書を関連付けることができ、よく工夫されている。

■学校図書「みんなと学ぶ」

各単元が「つかむ」・「見方や考え方を学ぶ」・「まとめる・ふりかえる」・「広げる」の学習過程で構成され、見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されている。

6年では1単元で複数領域を学習する複合単元が設けられるなど、習得した知識を活用できるよう工夫されているが、5年以下では、他領域の活動も設定されているものの、内容が連動しておらず、習得した知識・技能を活用する学習には繋がりにくい。

学年のはじめには、友達と質問し合ったり、話し合ったりする活動が設定され、対話的な活動を促すとともに、コミュニケーションを重視する単元では、設定された場面や相手にふさわしい話し方について考えるなど、適切な対話の仕方が身に付くよう工夫されている。一方、「話すこと・聞くこと」の単元には、同じような形態の話し合い活動が2学年に渡って設定されているものもあり、言語活動を発展的に展開するための工夫が不十分な面が見られる。

単元末及び巻末には、学習した技能や言語活動の要点等が掲載されているが、そうしたことを具体的に活用することの重要性や、活用する場面が提示されておらず、また、単元末の振り返りが問いの形で示されているものの、確認のみの振り返りになりやすい表現となっているなど、自らの学びを見つめ直したり、今後の学習に生かしたりすることに繋げにくく、発展的な学習に促す工夫に不十分な面が見られる。

2年以上の各学年にある「きせつのたより」では、大判の写真と共に四季それぞれに合った言葉や詩が掲載され、季節の変化とそれを表す言葉のもつ豊かさを意識できるよう工夫されている。また、伝統的な言語文化については、昔話、俳句、短歌、古文、文語詩、漢詩と共に、伝統芸能では狂言が紹介され、音読したり演じたりすることで、古典や伝統芸能等に親しんだり、そのよさを感じたりすることができるよう工夫されている。

読書については、読書に親しみ、学習に生かすよう、各学年で「読書に親しもう」として、読書の意義やよさを学習するとともに、4年上巻の巻末資料では、「地いきの図書館を利用しよう」として地域図書館に目を向けるなど、児童の多読を促している。さらに、「この本読みたいな」として関連図書が紹介されており、学習と読書を関連付けることができるよう工夫されている。

■教育出版「ひろがる言葉」

「話すこと・聞くこと・書くこと」の学習では単元冒頭に、「読むこと」の学習では単元末にそれぞれの単元に応じた学習過程が示されており、見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されている。また、各単元では、「ここが大事」として単元で付けたい力が示されるとともに、巻末には「ここが大事」のまとめが掲載されるなど、身に付けたい力を意識して学習を進めることができる。

単元の配列については、「話すこと・聞くこと」の学習に続いて「書く」学習を接続させるなど、複合的に学べるよう工夫されているとともに、「読むこと」の学習では、複数の教材を配置し、重層的な言語活動を展開できるようにするなど、習得した知識・技能を活用した活動が進めやすいよう工夫されている。また、各学年の冒頭に設定される単元では、グループでの連想ゲームや、自分への質問に関する答えを友達に発表するなどの活動が設定されるとともに、各単元では、児童が対話する様子が描かれており、対話的な学習を促すよう工夫されている。

単元末には、学習のポイントや振り返りが設定されていたり、一部単元においては、学習したことを学校生活や家庭生活でも生かすよう促すキャラクターの吹き出しが掲載されているなどの工夫が見られるが、振り返りは、「できたかどうか」のみの問いであり、自らの学びを見つめ直したり、今後の学習に生かしたりすることに繋げにくい。

付録の「言葉のまとめ」では、学習した教材を振り返りながら、目的に応じて使う言葉や文例が示される工夫が見られる。また、「きせつの言葉を集めよう」と俳句の教材を関連付けて提示するなど、季節の変化とそれを表す言葉のもつ豊かさを意識できるよう工夫されている。伝統的な言語文化については、昔話、俳句、故事成語、漢文、古文等と共に、伝統芸能では狂言が紹介され、言葉遊びや現在と当時の言葉の違いに気付く活動を通して、古典や伝統芸能等に親しんだり、そのよさを感じたりすることができるよう工夫されている。

読書については、読書に親しみ、学習に生かすよう、各学年の「読むこと」の学習の単元末で「本を読もう」として関連図書が紹介されるとともに、巻末付録「〇年生で読みたい本」で

は、推奨する本が紹介されているが、読書単元や学校図書館活用と連動しておらず、読書を促す工夫が弱い。

■光村図書「国語」

領域に応じて「とらえる」「ふかめる」「まとめる」「ひろげる」などの4ステップの学習過程で単元が構成されており、見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されている。また、巻頭では、単元名、付けたい力、既習事項とのつながりが領域別に整理されて示されているうえ、単元冒頭でも関連する既習単元が示されるなど、既習事項を意識して学習を展開できるよう、よく工夫されている。

3年以上の「読むこと」の学習では、複数の説明文教材を配置することで、言語活動を段階的・発展的に指導できるよう工夫されているとともに、単元で育成を目指す資質・能力を指導者・児童とも意識することができるよう、例えば、「表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう」のように、複数の指導事項を含んだ名称を単元名として設定するなど、単元内で習得した知識・技能を活用した学習活動が進めやすく、優れている。

各学年のはじめには、友達やグループで質問し合ったり、話し合ったりする活動が設定されているとともに、各単元では、学習の流れや学習を進める観点を示しながら、児童が対話する様子が描かれるなど、対話的な学習を促している。また、単元末では「知る」「(書く) (読む) (話す・聞く)」「つなぐ」の3つの「ふりかえり」が問いの形で示されるとともに、単元で重視した指導事項を生かしながら関連図書を読むことを促すなど、自らの学びを見つめ直したり、今後の学習に生かしたりできるようよく工夫されている。

2年生以上の各学年にある「きせつのことば」では、四季それぞれにあった言葉や詩が掲載され、季節の変化とそれを表す言葉のもつ豊かさを意識できるよう工夫されている。また、伝統的な言語文化については、昔話、俳句、短歌、古文、漢文等が取り上げられるとともに、伝統芸能では落語や狂言が紹介され、音読や「言葉遊び」の活動を通して、古典や伝統芸能等に親しんだり、その良さを感じたりすることができるよう工夫されている。

読書については、読書に親しみ、学習に生かすよう、全学年に2回、読書単元「本は友達」を設け、学校図書館の活用や友達と本を紹介し合う活動を提示するとともに、「読むこと」の学習の単元末には「この本、読もう」で関連図書の紹介がされ、さらに巻末付録では「本の世界を広げよう」として、テーマやジャンルに分けて図書が紹介されるなど、よく工夫されている。

※詳細の結果・データは、観点別資料及び観点別・視点別評価資料に記載。

選定の観点		選定の視点		東京書籍	学校図書	教育出版	光村図書
1	基礎的・基本的な知識・技能の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。	1 指導事項の明確化		○	○	○	○
		2 豊かな語彙力の育成につながる工夫		○	○	○	○
		3 読書の意義や効用		◎	○	△	◎
2	習得した知識・技能を活用した問題発見・解決的な学習や豊かな言語活動が展開しやすいなど、思考力・判断力・表現力等の育成につながるよう工夫・配慮されていること。	1 既習事項の活用		○	△	○	◎
		2 思考力・判断力・表現力の育成に向けた工夫		○	○	○	○
		3 言語活動の充実に向けた工夫		○	○	△	◎
3	児童が主体的・対話的に学ぶことができるよう、探究意欲を高める工夫・配慮がなされ、さらに、学んだことを活用した発展的な学習が展開しやすいこと。	1 学習の見通しの提示		○	○	△	○
		2 主体的・対話的な学習に向けた工夫		○	○	○	○
		3 探究意欲を高め、発展的な学習に向けるための工夫		○	△	△	◎
4	国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力の育成に向け、伝え合う力、思考力や想像力及び言語感覚を養う教材が適切に配列されとともに、実生活との関連を重視した言葉による見方・考え方を働かせた活動が展開しやすいこと。	1 言語感覚等の育成につながる工夫		○	○	○	○
		2 実生活と関連づけた学習の工夫		○	△	◎	◎
5	我が国の言語文化、言葉の特徴や使い方、情報の扱い方に関する事項について、教材や活動が適切に取り上げられていること。	1 伝統的な言語文化の取り扱い		○	○	○	○
		2 情報活用 of 知識・技能の習得につながる工夫		○	△	○	◎
6	単元構成の系統性・発展性に加え、カリキュラム・マネジメントの視点から他教科等や現代的な教育諸課題との関連、また他校種との接続や家庭・地域との連携について工夫・配慮されていること。	1 単元構成の系統性・発展性		○	○	○	○
		2 他教科や教育課題等との関連		◎	○	○	○
		3 他校種との接続		○	△	○	○
		4 家庭・地域との連携		○	○	○	○
7	基本的人権の尊重及び道徳性の育成の視点に立った内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。	1 人権教育の推進		○	○	○	○
		2 道徳教育の推進		○	○	○	○
8	表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成等について配慮がなされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。	1 文章や写真、図表等の適切さ、正確性、使いやすさの工夫		○	○	○	○
		2 ユニバーサルデザインの視点		○	○	○	○
		3 装丁や編集の適切さ、堅牢性の工夫		○	○	○	○
		4 用紙、インク等の環境面への配慮		○	○	○	○

【国語】観点別資料

【選定の観点1】

基礎的・基本的な知識・技能の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。

発行者名			
2 東書	11 学図	17 教出	38 光村
<p>○各単元のはじめと単元末に、「ことばの力」として、付けたい力とそのまとめが示されており、児童はその習得に向けて重要となる基礎的・基本的な知識・技能を意識しながら学習を進めることができる。</p> <p>○各学年の「ことばあつめ」と巻末の「ことばのひろば」で、生活場面で使う言葉や、感情を表す言葉、比べる言葉など、特定の場面や状況で使う言葉が集められている。また、各単元末の「ことば」では、学習内容に関わる話型や文型、言葉が示され、単元の学習と合わせて多様な語彙指導ができるよう工夫されている。</p> <p>○各学年に推奨本を紹介するページが設けられたり、2年以上では「図書館へ行こう」のページが設けられ、学校図書館の使い方を学ぶとともに、読書活動を促す工夫がなされている。また、「読む」領域の単元末では関連図書が紹介され、学習と読書を関連づけた指導が展開しやすく、よく工夫されている。</p>	<p>○各単元のはじめにめあてが示されるとともに、「読むこと」の単元では単元末に、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元では巻末に「国語のカギ」として、付けたい力が示されており、児童はめあてを意識して学習を進めながら、身に付いた力を確かめることができる。</p> <p>○各学年に配置されている「言葉の泉」や「言葉のきまり」には、6年では「熟語の構成」、1年では「文のきまり」など、漢字の構成、言葉の特徴や使い方など、多様な知識と技能の育成につながる工夫がなされている。</p> <p>○各学年に「読書に親しもう」として、読書の意義や楽しさを学習するとともに、4年上巻の巻末資料では、地域図書館の利用を推奨するなど、児童の多読を促すよう工夫されている。また、各単元において「この本読みたいな」として関連図書が紹介されており、学習と読書を関連づけた指導が展開しやすい。</p>	<p>○単元末の「ここが大事」や巻末の「言葉のまとめ」では、習得すべき知識・技能や語彙、文型などがまとめられており、習得した知識・技能を積み上げながら、他の単元で活用できるよう、工夫されている。</p> <p>○各学年に配置されている言葉に関するコラムでは、「漢字辞典の引き方」や「敬意を表す言い方」「世代による言葉の違い」など、様々な視点が取り上げられ、学習活動に必要な技能を身に付け、言葉への関心を高められるよう工夫されている。</p> <p>○各学年の「読むこと」の学習の単元末には、「本を読もう」として関連図書が紹介されている。一方、巻末付録「〇年生で読みたい本」では、推奨する本が紹介されているが、読書や学校図書館活用と連動しておらず、読書を促す工夫が弱い。</p>	<p>○各単元の冒頭とまとめの「たいせつ」で、単元での付けたい力が示されており、付けたい力を意識した学習ができるとともに、身に付いた力を確かめることができるよう工夫している。</p> <p>○2年生以上の各巻巻末の「言葉の宝箱」では、「考えや気持ちを伝える言葉」として学年に応じた語彙が提示され、語彙に関心をもち、言葉の獲得を促す学習に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○全学年に2回、読書単元「本は友達」を設け、学校図書館の活用や友達と本を紹介し合うなど、読書に親しみ、学習に生かすよう工夫されている。また、「読むこと」の学習の単元末には「この本、読もう」で関連図書の紹介がされるとともに、付録に「本の世界を広げよう」として、テーマやジャンル別に分けられて図書を紹介し、読書指導の充実に生かせるようよく工夫されている。</p>

【選定の観点2】

習得した知識・技能を活用した問題発見・解決的な学習や豊かな言語活動が展開しやすいなど、思考力・判断力・表現力等の育成につながるよう工夫・配慮されていること。

発行者名			
2 東書	11 学図	17 教出	38 光村
<p>○「読むこと」の単元の中に、「書くこと」の活動を位置付けたり、「読むこと」と「書くこと」の単元に関連させて複合的に指導できるような教材を配列するなど、習得した知識・技能を単元のなかで繰り返し活用できるよう工夫されている。</p> <p>○巻末付録に前学年（同学年上巻）で学習した「言葉の力」がまとめて掲載されているとともに、単元冒頭では、「覚えているかな」で関連する既習事項が示されており、習得した知識・技能を活用した学習につなげやすい。</p> <p>○各学年の「国語のノート作り方」では、自分の考えやそこに至った理由、友達の考えなどをまとめていく活動が示されており、思考の言語化や学びの振り返りを促すなど、工夫されている。</p> <p>○各単元の冒頭で、学習の進め方とともに、育成をめざす資質・能力を「言葉の力」として示したり、「言葉の力」に関連する既習事項を示したりすることで、言語活動の充実を図れるよう工夫されている。</p>	<p>○6年では、単元で複数領域を学習する複合単元が設けられている。一方、5年以下では、単元内で他領域の活動も設定されているものの、内容が連動しておらず、習得した知識・技能を活用しづらい。</p> <p>○「話すこと・聞くこと」の単元では、同じような形態のグループでの話し合いが、2学年に渡って設定される状況があり、学年に応じて言語活動を発展的に展開するための工夫が不十分である。</p> <p>○3年生、5年生「自分だけのノートを作ろう」では、自分の考えや友達の考えを通して、分かったことや気付いたことをまとめることで、考えを深めることができるよう工夫されている。</p> <p>○「要旨をとらえて読もう」など、育成をめざす資質・能力をイメージできる単元名を設定したり、単元名の後に「人物の心情が聞き手によく伝わるように、音読しましょう」など、具体的な言語活動を提示したりするなどして、単元冒頭で具体的な言語活動を想起できるよう工夫されている。</p>	<p>○「読むこと」の学習では、単元に複数の教材を配置するなど、習得した知識・技能を活用した言語活動が進めやすいよう工夫されている。</p> <p>○「話すこと・聞くこと」の学習の続きに「書く」学習を接続させるなど、複合的に学べるよう単元配列が工夫されている。</p> <p>○5年「情報ノートを作ろう」では、単元の学習内容を取り上げたノート例を示しながら、ノートづくりを学べるよう工夫されている。</p> <p>また、3年「発見ノートを作ろう」、3年・5年「漢字学習ノート」では、具体的な学習場面を設定したノートのまとめ方を示し、年間を通して活用できるよう工夫されている。</p> <p>○「事例と解説をもとに言葉と事実との関係を考えよう」など、指導事項と関連した単元名を設定するなど、育成をめざす資質・能力を意識しやすいよう工夫されているが、単元名を含め、単元冒頭で具体的な言語活動が明記されておらず、工夫が不十分である。</p>	<p>○6年単元「表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう」のように、単元内で習得した知識・技能を活用した学習活動を進めることができ、また、3年以上の「読むこと」の学習では、複数の説明文教材を配置し、言語活動を段階的・発展的に充実させながら指導できるよう工夫されており、優れている。</p> <p>○巻頭では単元で付けたい力と関連する既習事項が領域ごとに整理して示され、単元冒頭でも再度「これまでの学習」として、関連する既習単元を示すなど、既習事項を意識して学習を展開することができるよう、よく工夫されている。また、単元末には、単元で重視した指導事項を生かして読むことを促しながら関連図書を紹介しており、優れている。</p> <p>○巻頭の「考えるときに使おう」では、考えを整理し、深める手法として、思考を表す表現やツールが示され、単元末にはノート例を提示し、思考と言語活動の深まりによって、思考力・判断力・表現力が高まるよう工夫されている。</p> <p>○「事例と意見の関係をおさえて読み、考えたことを伝え合おう」など、育成をめざす資質・能力と、「読み」「伝える」など、単元の学習段階に応じた複数の言語活動が単元名で示されており、また、単元冒頭では単元に関連する既習事項が提示されるなど、言語活動の充実に向けてよく工夫されている。</p>

【選定の観点3】

児童が主体的・対話的に学ぶことができるよう、探究意欲を高める工夫・配慮がなされ、さらに、学んだことを活用した発展的な学習が展開しやすいこと。

発行者名			
2 東書	11 学図	17 教出	38 光村
<p>○巻頭で、「つかむ、取り組む、振り返る」の学習過程を示すとともに、単元の手引きの冒頭で、学習で重要となる視点が「問い」の形で提示され、言語活動を通して「問い」を解決していくという学習の見通しを意識できるよう工夫されている。</p> <p>○学年のはじめに友達と質問し合ったり、話し合ったりする単元が設定されている。また、各単元において、吹き出しを多く活用し、対話的な学びのモデルとして児童の発言例を示すなど、具体的な言語活動が分かりやすく、対話的な学びを促す工夫がなされている。</p> <p>○単元末には、自らの学びを見つめ直したり、今後の学習に生かしたりする振り返りとともに、その「ふりかえる」の後に付けたい力を示す「言葉の力」が配置されることで、何ができるようになったかを意識できるよう工夫されている。</p> <p>○単元末の「いかそう」では、学習したことを生かせる学校生活や日常生活の場面を投げかけるとともに、巻末には、前学年で学んだ「言葉の力」をまとめて掲載し、単元内や発展的な学習における活用を意識できるよう工夫されている。</p>	<p>○巻頭で教科書の使い方を示し、各単元では、「つかむ」・「見方や考え方を学ぶ」「まとめる・ふりかえる」・「広げる」という学習過程が示されており、見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○学年のはじめに友達と質問し合ったり、話し合ったりする活動が設定されている。また、対話的な活動を促すとともに、「話すこと・聞くこと」のうちコミュニケーションを重視する単元では、設定された場面や相手にふさわしい話し方について考えるなど、適切な対話の仕方が身に付くよう工夫されている。</p> <p>○単元末に問いの形で振り返りが示されているが、確認のみの振り返りになりやすく、自らの学びを見つめ直したり、今後の学習に生かしたりすることに繋げにくい。</p> <p>○単元末及び巻末に、学習した技能や言語活動の要点等を掲載しているが、そうしたことを具体的に活用することの重要性や、具体的に活用する場面は提示しておらず、発展的な学習を促す工夫が見られない。</p>	<p>○「話すこと・聞くこと・書くこと」の学習では単元冒頭でそれぞれの単元に応じた学習過程が示されているが、「読むこと」の学習では単元末にしか学習過程や言語活動の具体が示されておらず、学習を見通すための工夫が不十分である。</p> <p>○学年の冒頭に設定された「話すこと・聞くこと」の単元では、グループで連想ゲームをしたり、自分への質問に関する答えを友達に発表したりする活動が設定されている。また、各単元では、児童が対話する様子が描かれ、対話的な学習を促すなど工夫されている。</p> <p>○単元末の振り返りが、「できたかどうか」のみの問いであり、自らの学びを見つめ直したり、今後の学習に生かしたりすることに繋げにくい。</p> <p>○単元末に、学習のポイントが示され、一部単元においては、キャラクターの吹き出しにより、学習したことを学校生活や家庭生活でも生かすよう促すなど、工夫されている。</p>	<p>○学年のはじめには学習の仕方が提示され、単元では「見通しをもとう」と「ふりかえろう」との間に領域に応じて「とらえる」「ふかめる」「まとめる」「ひろげる」など、4ステップの学習過程が示されることで、見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○学年のはじめに友達やグループで質問し合ったり、話し合ったりする活動が設定されている。単元では、学習の流れや学習を進める観点を示しながら、児童が対話する様子が描かれており、対話的な学習を促すよう工夫されている。</p> <p>○単元末に「知る」「(書く) (読む) (話す・聞く)」「つなぐ」の3つの「ふりかえり」が問いの形で示されており、自らの学びを見つめ直したり、今後の学習に生かしたりできるよう、よく工夫されている。</p> <p>○単元末の「いかそう」では、学習で重視されたことを日常生活やその後の学習で活用することを促している。また、付録「学習を広げよう」では、課題解決方法や思考ツール、既習の教材と関連する教材や資料など、多様なコンテンツを掲載し、発展的な学習につながるよう、よく工夫されている。</p>

【選定の観点4】

国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力の育成に向け、伝え合う力、思考力や想像力及び言語感覚を養う教材が適切に配列されるとともに、実生活との関連を重視した言葉による見方・考え方を働かせた活動が展開しやすいこと。

発行者名			
2 東書	1 1 学図	1 7 教出	3 8 光村
<p>○2年以上の各学年にある「きせつの足音」では、四季それぞれに合った言葉や詩が掲載され、季節の変化とそれを表す言葉のもつ豊かさを意識できるよう工夫されている。</p> <p>○5年「話し言葉と書き言葉」の単元では、実生活での活用を想定して、同じ内容を話して伝える場面と書いて伝える場面を比較できるように設定し、それぞれの長所・短所に気付くことができるよう工夫されている。</p> <p>○6年「世界に目を向けて意見文を書こう」では、フェアトレードが取り上げられたり、単元末では「世界や社会の出来事で興味を持ったことについて、自分の考えを発表する」活動が設定されるなど、実生活と社会的課題を関連づけた発展的な学習に繋げるよう工夫されている。</p>	<p>○2年以上の各学年にある「きせつのたより」では、大判の写真とともに四季それぞれに合った言葉や詩が掲載され、季節の変化とそれを表す言葉のもつ豊かさを意識できるよう工夫されている。</p> <p>○6年「言葉づかいのちがいを」で、話し言葉と書き言葉の違いに触れられているが、それぞれの特徴が簡単に示されるのみで、具体的な活用場面も設定されておらず、工夫が不十分である。</p> <p>○6年では、AIに関する2つの文章を読み、AIの技術が進んでいくことで自分たちの生活がどのように変わっていくのか、AIとどのような付き合い方をすれば豊かな生活が送れるのかといったことを考えるなど、未来社会と自分の生活を結びつけた発展的な学習に繋げるよう工夫されている。</p>	<p>○付録の「言葉のまとめ」では、学習した教材を振り返りながら、目的に応じて使う言葉や文例が示される工夫が見られる。また、「きせつの言葉を集めよう」と俳句の教材を関連づけて提示するなど、季節の変化とそれを表す言葉のもつ豊かさを意識できるよう工夫されている。</p> <p>○5年上巻「話し言葉と書き言葉」では、インタビューの会話と学校新聞の記事という学習活動を比較する場面を設定することで、それぞれの言葉の特徴や違いに気付く、実生活でも活用できるよう、よく工夫されている。</p> <p>○6年「自分の考えを発信しよう」では、自分で課題を決めて、取材し、説得力のある意見文を書くという学習を行った後に、単元末で、キャラクターが「新聞に投書してみてもいいね」と話しかけており、学習を実生活で生かせるよう工夫されている。</p>	<p>○2年生以上の各学年にある「きせつのことば」では、四季それぞれにあった言葉や詩が掲載され、季節の変化とそれを表す言葉のもつ豊かさを意識できるよう工夫されている。</p> <p>○6年「話し言葉と書き言葉」では、職場体験でインタビューした内容を文章にして伝えるという具体的な場面を例示し、聞いた言葉と書いた言葉の特徴や相手に伝える上で気をつけるべき点について考えさせるなど、実生活にも生かすことができるようよく工夫されている。</p> <p>○6年では、身の回りにある課題を設定し、提案文を書くという、実生活と社会的課題を関連づける単元が設定されている。また、単元末には、具体的に分かりやすく書くということを委員会活動やクラブ活動で生かすことを促すなど、学んだことを活用できるよう工夫されている。</p>

【選定の観点5】

我が国の言語文化、言葉の特徴や使い方、情報の扱い方に関する事項について、教材や活動が適切に取り上げられていること。

発行者名			
2 東書	1 1 学図	1 7 教出	3 8 光村
<p>○昔話、俳句、百人一首、古文、漢文等が取り上げられ、伝統芸能についても紹介している。各学年に設定される「伝えたい言の葉」では、伝統的な言語文化に関する教材を提示しながら、気付いたことや感じたことを書いたり話し合ったりする活動を設定するなど、古典や伝統芸能等に親しんだり、その良さを感じたりすることができるよう工夫されている。</p> <p>○5年「方言と共通語」では、方言と共通語の解説とそれぞれの良さについて触れている。○5,6年では、「情報と情報の関係」や「情報の整理」など、思考を整理したり深めたりする手法に関わる知識・技能が、取り扱う単元末の「おさえる」で提示し、情報の扱い方を身に付け、思考力を育てるよう工夫されている。</p>	<p>○昔話、俳句、短歌、古文、文語詩、漢詩とともに、伝統芸能の中から狂言についても紹介している。各学年に設定される「言葉の文化を体験しよう」等の単元では、伝統的な言語文化に関する教材を提示しながら、音読したり演じたりする活動を設定するなど、古典や伝統芸能等に親しんだり、その良さを感じたりすることができるよう工夫されている。</p> <p>○5年「方言と共通語」では、地域による言葉やアクセントの違いの例を示すとともに、実際に地方でどのように発音するのかを調べる活動も設定されており、多様な地域の文化に親しみを持つことができるよう工夫されている。</p> <p>○情報に関する学習を設定しているが、扱っている単元が少なく、「情報の整理」に関する取扱いが不十分である。また、「情報と情報の関係」に関する内容も、取り上げ方が単発で、単元として指導しにくい。</p>	<p>○昔話、俳句、故事成語、漢文、古文等とともに、伝統芸能の中から狂言についても紹介している。言葉遊びや現在と当時の言葉の違いに気付く活動を設定するなど、古典や伝統芸能等に親しんだり、その良さを感じたりすることができるよう工夫されている。</p> <p>○5年「方言と共通語」では、地域によって言葉やアクセントが違うことを説明している。</p> <p>○単元の手引きにおいて、情報の活用や考えるための技法などを取り入れたり、関連図書でも情報に関わる図書を紹介するなど、工夫されている。</p>	<p>○昔話、俳句、短歌、古文、漢文等が取り上げられるとともに、伝統芸能の中から落語や狂言についても紹介している。音読や「言葉遊び」の活動を設定するなど、古典や伝統芸能等に親しんだり、その良さを感じたりすることができるよう工夫されている。</p> <p>○5年「方言と共通語」では、冒頭で「あなたの住んでいる地方では」と問いかけることで、生活する地域を意識しながら言葉づかいを考え、共通語や他の地域の言葉と比較し、それぞれのよさや、地域によって発音や使い方に違いがあることを理解できるよう工夫されている。</p> <p>○情報に関する学習が単元の学習とつなげて指導できる位置に設定されており、情報の扱い方を効果的に学習することができる。また、巻頭で示された思考ツール等が、学習活動で情報を整理し、思考する際の手立てとなるなど、優れている。</p>

【選定の観点6】

単元構成の系統性・発展性に加え、カリキュラム・マネジメントの視点から他教科等や現代的な教育諸課題との関連、また他校種との接続や家庭・地域との連携について工夫・配慮されていること。

発行者名			
2 東書	11 学図	17 教出	38 光村
<p>○各領域の単元，言葉の特徴やさまりに関する内容が，系統的・発展的にバランスよく配列されている。</p> <p>○4年「ふるさとの食を伝えよう」や5年「環境問題について報告しよう」など，他教科等と関連した指導を意識した教材・題材が盛り込まれている。また，単元末の「生かそう」の項目では，「社会科や理科で調べたことを発表する」と示すなど，「言葉の力」を他教科で生かせる場面が具体的に示されており，優れている。</p> <p>○乳幼児期の経験を言葉の学びにつなげていけるよう，生活科や図画工作科と関連した教材が配列されるとともに，1年生の学年末には，新1年生に学校を紹介する単元が設定されており，保幼小の接続を意識できるよう工夫されている。</p> <p>○「6年間の学習をふり返って」では，小学校の学習でできるようになったことを振り返るとともに，中学校での学習への期待を膨らませることができるよう工夫されている。</p> <p>○6年「防災ポスターを作ろう」では，地震に備えて「家の中を点検しよう」や「持出しぶくろを準備しよう」などが設けられるなど，家庭や地域との連携により学びが深まる教材・題材やコーナーが取り入れられている。</p>	<p>○各領域の単元が特定の時期に偏ることのないように配列されている。また，言葉の特徴や決まりに関する内容や技能的な内容についても多く取り上げている。</p> <p>○3年「冬眠する動物たち」や6年『『本物の森』で未来を守る』など，他教科等と関連した教材・題材が盛り込まれている。また，6年では，和食の良さを表やグラフ等で示すとともに，年鑑や統計資料，インターネット等による資料収集の活動を促すなど，他教科等との関連に配慮されている。</p> <p>○スタートカリキュラムの考えを意識した入門期入門編ユニットにおいて，複数の教材を組み合わせるなど，柔軟性のある単元構成となっている。</p> <p>○「6年生をふり返って」の単元で，1年間の学習と身に付けた力を振り返ることができるが，中学校の学習への繋がりを想起させる工夫が弱い。</p> <p>○3年「遊びをくらべよう」では，普段の遊びと昔の遊びの違いを比べるために，家の人に取材する活動が設定されるなど，家庭との連携を踏まえた言語活動を進めやすいよう工夫されている。</p>	<p>○各領域の単元，言葉の特徴やさまりに関する内容が，系統的・発展的にバランスよく配列されている。</p> <p>○6年「雪は新しいエネルギー」や「地域の防災について話し合おう」など，他教科や社会的課題に関連する題材が用いられるとともに，「言葉のまとめ」では，アンケートのとり方等，社会科や理科で利用できる情報収集の仕方が具体的に書かれるなど，工夫されている。</p> <p>○スタートカリキュラムの考え方を取り入れ，書写や生活科との連携を意識した構成となっている。</p> <p>○「ひろがる言葉」の単元で，6年間の学習を振り返り，卒業式で自分に送りたい言葉を選ぶ活動を通して，中学校の学習を意識することができるよう工夫されている。</p> <p>○6年「地域の防災について話し合おう」では，災害時の対応を家族と話し合ったり，非常時持出しぶくろの中身の見直しに触れられるなど，家庭・地域との連携を促すよう工夫されている。</p>	<p>○各領域の単元，言葉の特徴やさまりに関する内容が，系統的・発展的にバランスよく配列されている。</p> <p>○4年「世界にはこる和紙」や6年『『鳥獣戯画』を読む』など，他教科等との関連を意識した単元が配列されているほか，モデル文として他教科の題材が取り上げられている単元もあり，工夫されている。</p> <p>○手紙を書く相手として幼稚園の先生を設定されており，保幼小の接続が意識されている。</p> <p>○「中学校へつなげよう」の単元で，小学校で身につけた言葉の力を振り返り，できるようになったことを書きとめるページを設けるとともに，巻末には自分自身にあてた表彰状を作成する活動を設けるなど，中学校の学習への期待を膨らませる工夫が見られる。</p> <p>○3年「気持ちをこめて『来てください』」では，運動会や学習発表会の案内を書いて届ける活動を通して，地域の人々との関係を深めたり，巻末付録「手紙の書き方」と連動させ，実生活でも手紙を書く意欲につなげるよう工夫している。</p>

【選定の観点7】

基本的人権の尊重及び道德性の育成の視点に立った内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道德教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。

発行者名			
2 東書	11 学図	17 教出	38 光村
<p>○文学的文章は、子どもたちの心に響く人の生き方や他者への思いやりに触れることができるよう工夫されている。</p> <p>○生活を明るくし、強く正しく生きる態度の育成に役立つ題材を多く取り扱うとともに、国際理解についても関連を図れるように工夫されている。</p> <p>○生命を尊重し、他人を思いやる心を育てる視点の教材が多く取り上げられている。</p> <p>○問題を解決するために話し合う単元を設定したり、各単元の中に協働する場面を設定したりして、相手を尊重する態度が育つよう配慮されている。</p>	<p>○文学的文章において、子どもたちの心に響く人の生き方や他者への思いやりに触れることができるよう工夫されている。</p> <p>○自然を愛し、美しいものに感動する心を育てることをねらいとして、自然や生き物を題材にした文章を多く取り扱っている。</p> <p>○人権教育および福祉教育の観点で、他者理解や相互理解を育む教材が多く取り上げられている。</p> <p>○他者や多様性を尊重する態度を育むことをねらいとして、友達の好きなことや得意なことを聞き出して紹介する単元などが設定されている。</p>	<p>○文学的文章において、子どもたちの心に響く人の生き方や他者への思いやりに触れることができるよう工夫されている。</p> <p>○他人を思いやる心を育てることをねらいとして、友達同士など人との関わりを取り上げた文章や題材を多く取り扱っている。</p> <p>○豊かな人間性や社会性、生命の尊重、豊かな情操を育むなど、道德の重点項目とのつながりが位置付けられている。</p> <p>○友情や本当の友達について考えられるよう、同年代の登場人物と自分とを重ね合わせ、物語を読む単元が設定されている。</p>	<p>○文学的文章において、子どもたちの心に響く人の生き方や他者への思いやりに触れることができるよう工夫されている。</p> <p>○我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を育てる視点からの教材を多く取り扱っている。</p> <p>○道德的価値と結び付けることのできる単元が、バランスを考慮して配置されている。</p> <p>○他者との相互理解を図るなどの人権教育を意識した言語活動が位置付けられた単元が多く扱われている。</p>

【選定の観点8】

表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成等について配慮がなされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

発行者名			
2 東書	11 学図	17 教出	38 光村
<p>○B5版で、文字の大きさ、字間、行間は読みやすく、囲みや矢印、優しい配色など、レイアウトも工夫されている。</p> <p>○色覚特性に対しても配慮されており、特別支援教育の専門家による監修がなされている。</p> <p>○造本は堅牢で、再生紙や植物油インキの使用など環境にも配慮されている。</p>	<p>○B5版で、文字の大きさ、字間、行間は読みやすい。レイアウトや色使いも工夫されている。</p> <p>○CUDが採用されており、専門家の監修がなされている。</p> <p>○造本は堅牢で、再生紙や植物油インキの使用など環境にも配慮されている。</p>	<p>○B5版で、写真が大きく鮮明に掲載され、配色やレイアウトも工夫されている。</p> <p>○UDフォントやCUDが採用されている。</p> <p>○造本は堅牢で、再生紙や植物油インキの使用など環境にも配慮されている。</p>	<p>○B5版で、文字の色や大きさ、字間や行間も読みやすく、配色やレイアウトも工夫されている。</p> <p>○UDフォントが採用されており、CUDや特別支援の観点からも専門家の監修がなされている。</p> <p>○造本は堅牢で、再生紙や植物油インキの使用など環境にも配慮されている。</p>

※CUD：カラー・ユニバーサル・デザイン、UDフォント：ユニバーサル・デザインフォント